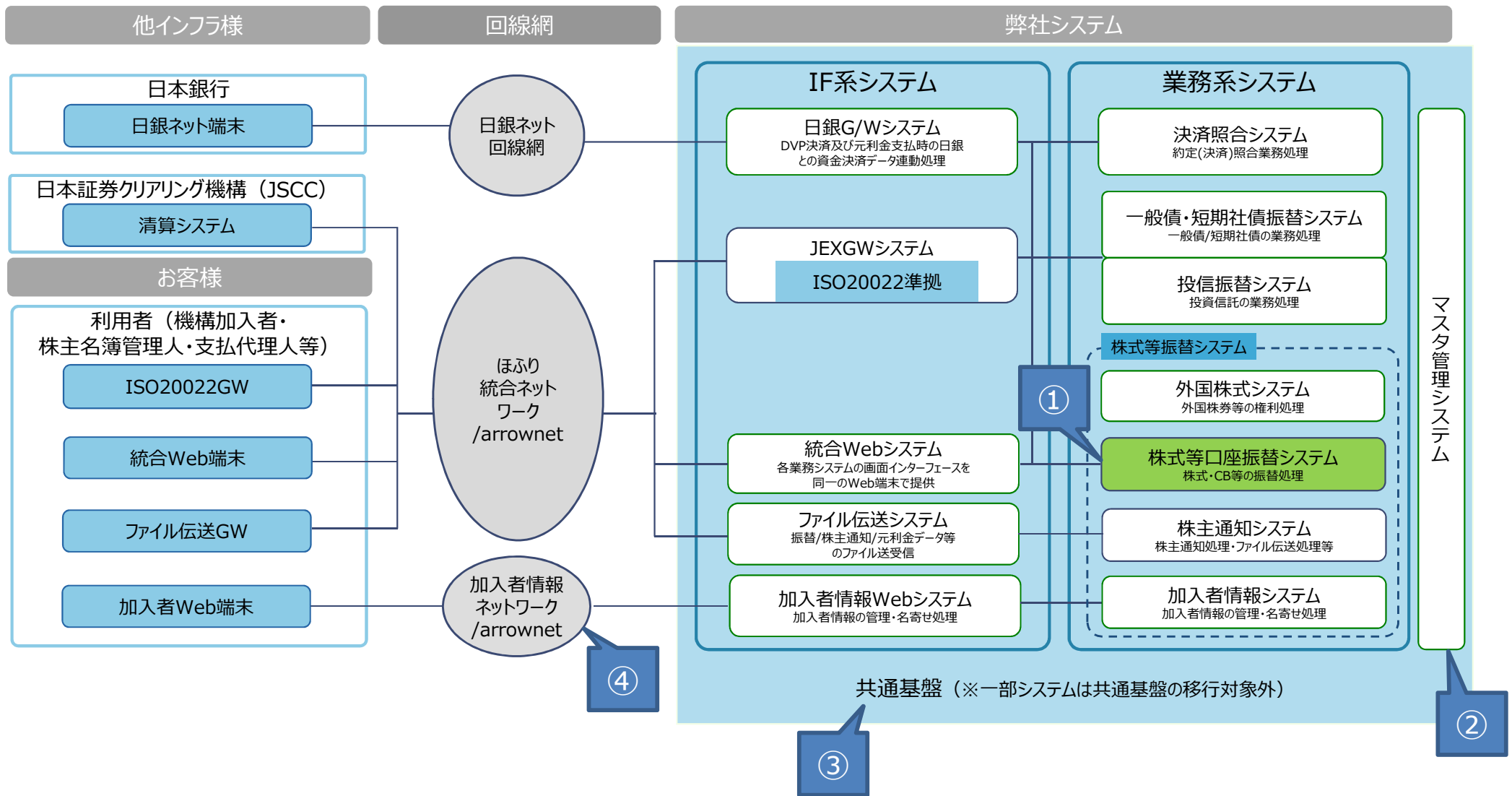


# 2020システムの概要

2020システムでは、以下の1～4の施策を実施しました。株式等口座振替システム以外のシステムについては2014システムの機能を流用し、ボックスリプレースを行っています（下記5）。

1	<b>株式等口座振替システムの再構築</b>	株式等口座振替システムは、保管振替制度の開始からメインフレーム上で15年以上稼働し続け、2014システムまで改修を重ねてきており、システム上の制約も多かったことから、拡張性・保守性に富んだ高品質なシステムとして刷新し、オープン基盤（共通基盤）上に再構築しました。再構築にあたっては、より安定したサービスを提供できるよう、分間あたりの振替件数の増大等処理能力を向上したほか、各種業務時限の変更要望等にも対応できるよう、バッチ処理時間の短縮等を行いました。また、振替請求等の制度・商品間の標準化を推進し、一部機能の見直しを行いました。
2	<b>マスタ管理システムの新規構築</b>	情報管理やオペレーションの効率化、データの信頼性向上を目的として、マスタ管理システムを構築し、これまでシステム毎に管理していた銘柄情報、お客様情報等の一元管理を実現しました。
3	<b>共通基盤の導入</b>	これまでシステム毎に構築・管理していた基盤を、仮想化ソフトウェアを用いた共通基盤に移行し、基盤の一元管理やリソースの柔軟な割当等を実現しました。ハードウェアとアプリケーションのリプレースを別々に行うことも可能となっています。
4	<b>ネットワークサービスの利便性向上</b>	ほふりネットワークの継続的なサービス提供に加え、加入者情報システムの接続についてarownetからの接続を実現しました。これにより、他の接続機関を含めた効率的なネットワークサービスの利用が可能となりました。
5	<b>その他のシステムに係る対応</b>	株式等口座振替システム以外のシステムでは、2014システムのアプリケーションを継続し、ハードウェア機器の更新対応としてボックスリプレース（共通基盤もしくは個別基盤）を行いました。また、全体最適化の一環として、非機能要件の適正化、不要機能の削除等を実施するとともに、運用の共通化を推進しています。これにより、オペレーションミスを防止し、より一層の安定運用を目指します。

# 2020システムの構成図



① 株式等口座振替システムの再構築：オープン化、処理能力向上、制度・商品間の機能標準化等を実施。

② マスタ管理システムの新規構築：各種情報の一元管理を実現。

③ 共通基盤の導入：基盤の一元管理やリソースの柔軟な割当等を実現。

④ ネットワークサービスの利便性向上：加入者情報Webの接続にarrownetが利用可能。